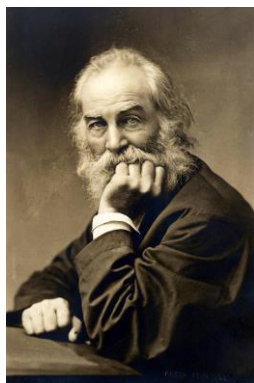


『Mind Charging』

第 212 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 2 月 13 日

ウォルト・ホイットマンの名言



情熱…。それなくして人間と呼べようか？

まるで映画やドラマの台詞のような言い回しの言葉ですね。そして、このような発言をするホイットマン氏は本当に“情熱的な人”だったのだろうと感じさせられる言葉です。

世の中には『十人十色』という言葉もあるように本当に様々な特徴を持った人間がいます。明るい人もいれば大人しい人もいます。私たち人間は比較的簡単にコミュニケーションを取り合う方法を持っています。しかし、その方法だけで人間の気持ちが“全て”読み取れるわけではないと思います。

先に述べたように、人間は様々な特徴(性格)があります。例えば性格上『こんなことを言って大丈夫かな・・・』と迷っているうちに伝えられなくなってしまったという時もあると思います。みなさんの中にも、これまでに『言ってくれなきゃわかんない!』と言われた経験がある人もいると思いますが、例に挙げたような性格の人にそれを伝えることで今後は改善されるでしょうか。私は逆効果だと思います。だからと言ってその人に情熱がないかと言えばそんなことはないと思います。私が言いたいことは『活発＝情熱的』とは限らないということです。仲間が心の内に秘めた思いを読み取ろうとする『思いやり』が重要です。

今回の言葉にあるように、情熱がない人間はいないと思っています。ただ、正しく表現する自信がないだけなのです。自分の物差しだけで『あの子は何も言わない(考えていない)からいいや・・・』と決めつけず、“受け入れ態勢を作る(見せる)”ことから始めてみませんか？自分にとっては簡単なことでも他の誰かには非常に難しいこともあるのではないのでしょうか。自分と人は違うということを理解することがより良いコミュニケーションを取り合う第一歩だと思います。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ウォルター・ホイットマン はアメリカ合衆国の詩人、随筆家、ジャーナリスト、ヒューマニスト。超越主義から写実主義への過渡期を代表する人物の一人で、作品には両方の様相が取り込まれている。アメリカ文学において最も影響力の大きい作家の一人でもあり、しばしば「自由詩の父」と呼ばれる。 ニューヨーク州ロングアイランドに生まれ、ジャーナリスト、教師、公務員として働き、南北戦争に志願看護師として従事する傍ら、詩を出版する。活動初期には、禁酒運動小説 Franklin Evans も発表している。初め 1855 年に自費出版されたホイットマンの代表作『草の葉は、アメリカの叙事詩を市井の人々に届けようという試みであった。ホイットマンは 1892 年の死まで、この作品の拡充、改訂を重ねた。それぞれの版には、時代の風潮や作者の思想の変化が反映されている。初版の巻頭詩「ぼく自身の歌」が最も広く知られている。(Wikipedia 参照)